

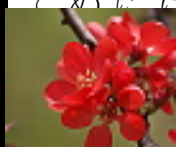
父親の7回忌が過ぎた頃より、月参りを美佐子坊守様にお願ひする機会が多くなりました。正信偈や仏説阿弥陀經を丁寧にお勤めして頂きます。そしてお参りの後で家内と長話を楽しんでいたようです。

その頃に、梅鶯仏教壮年会

口より、庭、外陣、内陣とも、いつもきれいに整然と手入れをされており、気持ちよく幸せな時間を過ごさせて頂きました。

坊守様の人柄のお陰と感謝しております。

死ぬ「と書かれて  
 一孫死ぬ、子死  
 かと渡された紙に  
 と、ではこれでは  
 と、かとはどうす  
 ことかと問いたす  
 ぬ死ぬ」とはど  
 願いの「死ぬ死  
 ぬめでたい言葉と  
 と書いて渡された  
 ぬ、子死ぬ、孫死  
 ろ、一休禪師は「親死  
 葉をとお願いしたとこ  
 の誕生にめでたいお言  
 あるお方がお孫さん  
 ソードです。禅師のエピ  
 の一休宗純の室町時代  
 して知られる  
 とんちの「一休さん」



親、子、孫と順に命を終えることはめでたいことだ。

書いてもらったお方もさすがの人物で納得して帰られたという話です。

もちろん順番通りではなく、せめてそれを喜ばなければならぬ。どの、これは厳しい人との別れです。その生老病死の四苦をどう乗り越えるかが私達にとつて大きな問題です。

この度ノーベル賞を受賞された坂口志文氏の研究は免疫細胞です。

免疫細胞は病原菌などの異物を攻撃する細胞ですがなぜか自らの正常な細胞まで攻撃するることがあり、妨害する。佐子の罹患した間、肺炎の原因の一つ。言われてます。一つ



し早く進んでいれば、質性肺炎の治療も可能  
 が、ただどんなに医学が  
 進歩しても、死そのものを  
 逃れることはできない  
 いのです。  
 そこで私はその悲し  
 みを少しでも和らげ  
 ようと互いに慰め合  
 いますが、ところろが心  
 底嘆き悲しんでいる人  
 を慰めることは難しい  
 ので、ともすれば逆効  
 果にもなります。  
 ある若い女性が仰った  
 ことですが、いろんな  
 人からお見舞いの言葉  
 を頂いたが、どの言葉  
 もかえって辛かった。  
 一番辛かった言葉が  
 「あなたは大丈夫よ、頑  
 張って」という言葉だ  
 ったそうです。



頑張れと言ふのか」と  
しか思えなかつたさう  
です。  
慰めの言葉が、か  
えつて本人を深く傷つ  
け苦しめてしまつたの  
で、と、ところがその女性  
は、「家族は慰めの言  
葉は一切言わないけれ  
ど、何もできない私  
を、それでも『おかあ  
さん』と呼んでくれ  
て、そのままでいいよ  
と支えてくれた。その  
お陰で今の私がいま  
す」とも仰つていま  
す。  
は、病氣になつて辛い  
し、病氣そのものの苦  
が、それ以上に今まで  
の自分、そしてこれか  
らの自分が失われてい  
くのではないかという  
不安ではないでしょう  
か。  
家族に今まで通り  
「お母さん」とよばれ